

# 高等学校 外国語科

## 1 改訂の趣旨及び要点

### 改訂の基本的な考え方

- ・各学校段階の学びを接続させるとともに、「外国語を使って何ができるようになるか」を明確にするという観点から、中学校での学びとの接続を意識しながら目標を設定した。
- ・統合的な言語活動を通して「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目と、話すことと書くことによる発信力の育成を強化する科目をそれぞれ新設し、外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させる。

### 目標の改善

外国語科で育成を目指す資質・能力を三つの柱で整理しています。

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことと言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする**コミュニケーションを図る資質・能力**を次のとおり育成することを目指す。

#### 知識・技能の習得

外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身に付けるようにする。

#### 思考力・判断力・表現力等の育成

コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。

#### 学びに向かう力・人間性等の涵養

外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

### 学習内容の改善・充実

- 「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の**5領域**に。
- 5つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）を総合的に扱うことを一層重視する科目として「**英語コミュニケーション**」を新設。
- 3つの領域（「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）を中心とした発信力の強化を図るため、「**論理・表現**」を新設。
- 扱う語彙数が、1,800語程度から、**1,800語～2,500語**に増加。
- 文法事項の指導については、用語や用法の区別などが中心とならないよう、実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにするための効果的な指導を工夫すること。
- 高等学校では指導上の配慮全般を総称して「支援」として明示された。例えば「読むこと」についての支援として、基本的な語句や文で言い換えることや、ゆっくりはっきりと話すことが挙げられる。日本語での指導は支援ではない。

### 内容の取扱い等

- 「英語コミュニケーションⅡ」は、「英語コミュニケーションⅠ」を、「英語コミュニケーションⅢ」は「英語コミュニケーションⅡ」を履修した後に履修させることを原則とする。
- 「論理・表現Ⅱ」は「論理・表現Ⅰ」を、「論理・表現Ⅲ」は「論理・表現Ⅱ」を履修した後に履修させることを原則とする。

## 2 高等学校外国語科における授業づくりのポイント

### ポイント①：授業を始める前に

ゴール（単元の終わり）から逆算した指導計画を立てることが大切です！

- 単元のゴールとなるアウトプット活動を決める。
  - ☆「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から計画する。
  - ☆単元やこれまでに学んだ要素を含んで計画する。

- 単元のねらいを達成するために、各時間のねらいと評価方法を決める。
  - ☆単元を通して、どの場面で何を評価するかを検討します。

- 各時間のねらいを達成するために、どのような活動を行うかを定める。

授業実践・振り返り

### ポイント②：言語活動の充実のために

- 読んだことをもとに書くなど、一つの領域を他の領域と結び付けた統合的な言語活動を取り入れましょう。
- 既習の言語材料（中学校における内容含む）を、さまざまな場面で繰り返し活用することで定着を図りましょう。
- 「話すこと」や「書くこと」の指導に当たっては、デモンストレーションやモデルとなる文章などを豊富に提示しましょう。
- 授業を実際のコミュニケーションの場にしましょう。
  - ・教員が授業中に積極的に英語を使用することで、生徒の豊富な英語使用を促すことにつながります。
  - ・クラスルームイングリッシュに加えて説明や発問、課題の提示などを生徒の分かる英語で話し掛けることから始め、徐々に新出の語彙なども入れていくように段階を踏んでいきましょう。
- コミュニケーションを行う目的、場面、状況を設定して言語活動に取り組みましょう。

### ポイント③：「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に向けて

「主体的・対話的で深い学び」が実現されている授業例

#### 【主体的な学び】

- 生徒の興味・関心を高めるような教材提示や発問をしている。
- 生徒が見通しを持てるよう、単元や授業のねらいを示している。
- 生徒が学んだことを振り返る場面を設定している。

#### 【対話的な学び】

- 自分の意見・考えを他者に伝え合う場面を設定している。
- インフォメーション・ギャップなどを用いて、新たな情報を得ることができるようにするなどの工夫をしている。
- 活動の目的に合わせた、学習形態を工夫している。

#### 【深い学び】

- 既習の知識・技能を活用してアウトプットする統合的な言語活動を設定している。
- 目的、場面、状況を意識し、「見方・考え方」を働かせてアウトプットする場面を設定している。
- 他者のモデルから学ぶ場面を設定している。

単元でめざす課題や評価規準（ルーブリック等）を共有しましょう！

インフォメーションギャップなどを用いて情報共有しなくてはならない状況をつくりましょう！

生徒が作成した英文を見ずに「自分の言葉」で対話あるいは発表することも大切です！

既習事項を活用することに加えて、自分の経験を関連させてアウトプットすることも効果的です！

### 3 高等学校外国語科実践事例

#### 単元(題材)の流れ

時間	主な学習内容・学習活動	学習過程
第1時	○単元の導入	目標の理解
第2時	○Part 1 本文導入、内容理解、音読、再話、意見を述べる	
本時(第3時)	○Part 1 の復習・Part 2 本文導入、内容理解、音読、再話、意見を述べる	○目標実現のための内容理解 ○目標実現のための産出活動
第4時	○Part 2 の復習・Part 3 本文導入、内容理解、音読、再話、意見を述べる	
第5時	○Part 3 の復習・Part 4 本文導入、内容理解、音読、再話、意見を述べる	
第6時	○Review①：内容理解、自身の考えを深める	
第7時	○Review②：内容理解、自身の考えを深める	単元のゴールとなるアウトプット活動
第8時	○Review③：単元のテーマについて自身の意見を書く	
第9時	○Review④：Review③の内容をグループで再構成しながらまとめる	

#### 深い学びを実現するためのポイント

##### 身に付けた知識・技能を活用し、アウトプットする統合的な言語活動の設定

単元の学習内容について、語彙や文法等の理解をめざした活動をするだけでなく、生徒が学んだことを活用し、表現する言語活動の設定が必要です。ポイントは、既習事項を何度も繰り返し活用し、定着させることです。また、読んだものについてペアで意見交換する活動や、書いた内容を読み合い、質疑応答をしたり、意見や感想を伝え合ったりするなどの複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を行えるようにすることも大切です。

##### 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせる

<b>見方・考え方</b>	外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。
---------------	--

深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせることが重要です。生徒が、単元において「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせて自分の考えを形成する必要があります。単元で働かせる見方・考え方(実践例)を以下に示します。

	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方	単元における見方・考え方(実践例)
目的	外国語で表現し伝え合うため、	英語で表現し伝え合うため、
何を	外国語やその背景にある文化を、	英語が国際語となることについてどう思うかを
着目点	社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、	多くの言語が消えつつあるという事実・言語を失うことの私たちへの影響に着目して捉え、
整理、形成、再構築	コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて情報を整理しながら考えなどを形成し再構築すること	クラスメイトに対して行うスピーチとして、伝えたい情報を整理し自分の考えを形成していくこと

#### 他者から学ぶ

相手を変えながら同じ活動を複数回行うことは、他者から学ぶ機会となります。相手の意見や表現を参考にすることができ、質の高いアウトプットに結び付けられることが期待できます。実践例においては、1度の再話活動ではなく、複数回行うことで言えなかったことが言えるようになる効果、また、他者のスピーチ原稿を読み合い推敲することで、内容面や言語面の改善点に気づく機会となり、自分の考えを深める効果をねらっています。

## 本時の指導計画

- ◆科目・学年 コミュニケーション英語Ⅲ・3年
- ◆単元名(題材名) How can we save disappearing Languages?
- ◆学習指導要領(H30年告示)との関連 2内容 [思考力・判断力・表現力等] (2) ア、イ

### ◆単元(題材)の目標

- ・多くの言語が消えつつあるという事実を学び、言語を失うことがどのように私たちに影響を与えるのか、そして消えゆく言語を、人々はどのように救おうとしているのかを学ぶ。
- ・英語が国際語となることについてどのように対処すべきかを英語でスピーチできるようになる。

### ◆本時の目標

- ・教師から聞いたり、生徒同士でテーマを議論することによって、文章の内容を理解することができる。
- ・テキストの音読や再話活動により、語彙や文法の用法を身に付ける。
- ・特定の言語を失うことが、我々にどのような影響を及ぼすのかを考える。

### ◆主な学習の流れ (第3時間目/全9時間)

学習活動	指導上の留意事項	授業のポイント (留意点など)
<p><b>1 本時の学習内容を確認する。</b></p> <p><b>2 前課の復習</b> ○前パートの内容について、スクリーンで画像を投影し Q&amp;A で内容を確認する。</p> <p><b>3 本課の導入</b> ○本課の紹介を行い、本文に入る前に Q&amp;A で生徒の知識を確認する。</p> <p><b>4 読解、内容理解</b> 1. 答えを探すために、本文を黙読する。 2. 内容理解を深めるため、質問することで文法や内容を理解させる。</p> <p><b>5 音読活動</b> 1. モデルリーディング・コーラスリーディング 2. ペアで穴あき音読 ・語形変化、内容語、機能語を補う</p> <p><b>6 リテリング活動</b> 1. 本文からキーワードを選ばせる 2. 個人、ペアでそのキーワードを使ってリテリングさせる。 3. 代表生徒がみんなの前で発表する</p> <p><b>7 ディスカッション</b> 1. 「日本でも、すべての校種で授業を英語で行うべきだ」という論を示し、メリットとデメリットについて議論させる。 2. 話し合った内容を代表生徒に発表させる</p> <p><b>8 復習内容の連絡</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元のゴールを明確化する。</li> <li>・教師から生徒に英語で質問、生徒がその質問に答えていく。</li> <li>・オーラルイントロダクションで新出単語を導入する。</li> <li>・内容理解のために黙読を行う。</li> <li>・ペアでトピックについて議論させたり、質問に答えたり、考えを共有させる。</li> <li>・発音のポイントを伝える。</li> <li>・自己表現につなげるために、多様な音読方法を用いて繰り返し音読させる。</li> <li>・自分の言葉で本文の内容をリテリングできるように伝える。</li> <li>・listener の生徒に対しても、聞く姿勢について指導。</li> <li>・それぞれがどのように考えているかを議論させ、ペア・クラスでその考え・意見を共有させる。</li> <li>・教師は生徒の考えに対しフィードバックを行う。</li> <li>・宿題や予習内容の確認を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールを見据えたスモールステップの授業設定を行う。</li> <li>・ICT の効果的活用 ○図表や絵 ○写真や動画</li> <li>・効果的授業構成 インプット ↓ インテイク ↓ アウトプットへの流れ</li> <li>・活動形態の工夫 ○個人作業 ○ペアワーク ○グループ活動</li> <li>・生徒の興味・関心を引きつける発問</li> <li>・フィードバックにより生徒のやり取りの能力向上につなげる。</li> </ul>